

広島市教育委員会

教育長 糸 山 隆 様

安芸地区医師会 会長 白川 敏夫

安佐医師会 会長 辻 勝三

広島市医師会 会長 佐々木 博

糸山 隆広島市教育長におかれましては、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、医師会の会務諸事業に対し、格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、御承知のとおり広島市域の三医師会においては、地域医療並びに学校保健活動の推進と充実のため、広島市の施策の推進に積極的に協力させていただくことにより市民へより質の高い医療・保健・福祉等を提供することを目指し、鋭意、取り組んでいるところです。

こうした中、医師の地域偏在や診療科の偏在、そして医療需要の増大による医療業務の増大や医師の高齢化といった医療を取り巻く課題は、学校医においても大きな影響を及ぼしており、年々、学校医及び学校健診をはじめとした学校保健活動へ協力可能な医師の数は減少傾向にあります。

三医師会としましては、園児・児童・生徒の健康保持・増進を図るために、貴会との緊密な連携のもとで、三医師会の会員が園医・嘱託医・学校医として様々な課題に適切に対応し、円滑に学校健診を実施できるような環境を整備することが何よりも重要と考えます。

つきましては、引き続き、広島市域の三医師会が、広島市の地域医療・学校保健・福祉行政に関して共通認識をもち、共に行動することを相互に確認し、ここに合同で要望いたしますので、その実現に向け、格別の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

## 令和3年度主要事業に関する要望書

学校医の職務に見合った報酬の見直し

## 学校医の職務に見合った報酬の見直し

平成 28 年度より運動器検診及び子どもの健康管理プログラムが定期健康診断に追加され、学校医が果たす業務は年々多岐に渡っております。心臓検診や尿検診については、検診後に検討委員会を開催し、健診結果で異常が発見された症例を検討するなど、きめ細かな対応をしており、他の市町に誇れる内容で健診を行っています。

昨年度、本市における学校医の報酬額を他の政令市と遜色ないものとなるように見直しを要望したところ、内科と眼科の報酬単価を増額していただきました。しかしながら、他都市との格差がなくなる程には至っておらず、さらに耳鼻科については見直しがされていないままとなっています。

現在の広島市立学校の学校医数について、例えば内科では、88 名(令和 2 年 4 月現在)の医師が担っていますが、そのうちの約 3 割は 70 歳以上であり、長年学校医に貢献されている医師によって支えられています。眼科・耳鼻科においては、少ない人数で担っているため、学校医としてだけでなく、協力医として多数校を掛け持ちすることで、何とか広島市の学校健診が成り立っているのが実情です。学校医の成り手が少ない現在の状況がこのまま継続すると、学校医ひとりあたりの兼務学校数が増え、負担増加がさらに深刻化していくことは避けられません。現任の学校医のモチベーションを上げ、学校医の新たな成り手を募るためには、早急に報酬額を適正化することは必須事項と考えます。ついでには、職務内容を鑑み、報酬の見直しを行っていただきますとともに、引き続き市域内の医師会が関係する隣接市町における報酬額に格差が生じることがないよう働きかけをお願いします。

また、運動器検診は内科学校医が実施しておりますが、検診の見落としを防ぐ役割でもあった姿勢健診が今年度から廃止されたことで、内科学校医の負担がより高まっています。子どもたちの運動器の異常を早期に発見して改善させ、障害を未然に防ぐために、整形外科専門医による運動器検診の実施体制の構築をしていただくよう要望します。